

# 日本地衣学会 No.166

## ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

### 目次

会務報告	647
会長就任挨拶／木下 薫	647
会員通信	649
ムカデゴケ科のこの地衣類は？／原田 浩	649

### 会務報告 *Reports of the JSL Activities*

#### 会長就任挨拶

*Message from the President, 2022 / by KINOSHITA Kaoru*

>>>>>>>> 日本地衣学会会長 木下 薫：明治薬科大学

この度、吉村庸先生、山本好和先生、高橋邦夫先生、  
棚橋孝雄先生、そして原田浩前会長の後を継いで、日  
本地衣学会第11期（2022-2023年）の会長を拝命  
いたしました。就任に際しまして、ご挨拶申し上げます。

日本の地衣類研究の中心にあって、その発展に大き  
な功績を上げてこられた歴代の会長の後を引き継ぐこ  
とは、大変身の引き締まる思いです。微力ではありま  
すが、学会発展のため誠心誠意努めたいと思いますの  
で、ご支援の程宜しくお願い致します。

私は、薬科大学の生薬学研究室に所属し、学生時代  
の卒論テーマはマイコトキシンというカビ毒の成分研  
究でした。卒業後、同研究室の助手となり現在に至っ  
ております。色々な薬用植物、生薬、サボテン科植物、  
地衣類から生物活性成分の探索を行うという、天然物



日本地衣学会  
第11期(2022-2023年)会長  
木下 薫

化学を専門分野としてきました。学生時代と助手時代の恩師である名取信策先生は、日本で初めて地衣成分の研究をされた東大の朝比奈泰彦先生、柴田承二先生のおられた研究室の教員をしていた経歴もあり、東大時代に地衣類から単離したウスニン酸やリケステリン酸はじめ多くの地衣成分が無造作に私の所属した生薬学研究室にありました。当時はドラム缶で地衣成分を抽出し、成分を分離していたそうです。そんなに沢山地衣が取れたのかと驚きです。今もそれらのサンプルは大事に保管してあります。今思えば、これが地衣との初めての出会いでした。名取先生が退職後は第3代地衣学会会長を務められた高橋邦夫先生が教室主任とされました。その数年後に地衣学会が設立され、当時、日本ペイントの研究所におられた山本好和先生と培養地衣菌の産生する成分に関する共同研究も始まり、私の地衣類研究が本格的に始まりました。その後、高橋先生の下、色々な地衣類の成分探索も行いました。高橋先生は、柴田先生の東大時代最後の学生であり、「地衣類の多糖類の研究」が博士論文のテーマでした。地衣学会が設立された当時、柴田先生から“日本の地衣成分研究の灯を消してはいけない”とのお話が高橋先生にあったと私に知ったのはつい数年前のことです。朝比奈先生が単離、構造決定したおよそ70種のサンプルは立派な木箱に入って今も研究室に残っており、お宝となっています。もちろんこれらのサンプルは、今も地衣成分同定の際に役立っています。私にとっての地衣研究は成分に関するものでしたが、地衣学会に参加し、地衣類の分類研究、地衣がなぜ極地などでも生育できるのかという謎に迫ろうとする研究、地衣菌の分離培養の研究、地衣と共生する藻類に関する研究、地衣菌と藻類の共生についての研究、地衣成分の生物活性の研究等々、さまざま視点からの地衣に関する研究があることを知りました。地衣という共通

する素材を通して、多くの異分野の研究者の方々と知り合うことができ、さらには地衣類に興味を持ってくれる中学・高校生の皆さんとまで知り合いになれたことは、地衣の魅力をさらに感じられただけでなく、私の財産となっています。昨年度はコロナ禍のため、大会はWeb開催となりましたが、学会発表を通して新たな人との出会いもあり、嬉しく思っています。地衣と言う共通の素材を通して、色々なアプローチによる研究発表の場である大会の開催に向けて尽力すると共に、多くの会員の皆さまの大会への参加を期待しています。

学会の重要な事業の一つである学会誌「Lichenology」は、綿貫委員長のもと、新体制でスタートしました。引き続き、多くの研究論文が掲載されるよう、皆さまからの投稿をお待ちしています。よろしく願いいたします。また、地衣学会のもう一つの出版物である「ニュースレター」は、坂東委員長のもと、2名の方に編集委員をお願いし、発行にご尽力いただいております。会の活動をお知らせする広報誌として重要な役割を果たしていると思います。今後益々楽しい記事も掲載されると思いますので、皆さまには発行を楽しみにしていただくとともに、委員会から原稿依頼があった際には是非ご協力いただけますようお願いいたします。また、広報活動の一端を担うホームページの運営については長年、原委員長にお願いしています。ホームページでは地衣類情報、大会・観察会、学会誌 Lichenology、ニュースレターのサイトと、それぞれ充実した内容になっています。引き続き、ご活用下さい。

日本地衣学会の活動は、この20年の歩みの中で大きく発展してきたと思いますが、今後も学会として継続的に活性化し、発展させていくためには、財政基盤の確立や、後継者の育成が大事であると思っています。そのためには会員数の増加と定着が必要であり、各地

域で地衣類の研究に取り組んでおられる研究者や学会運営を担う人材の育成と確保のために諸課題に取り組んで参りたいと思います。地衣学会の評議員はじめ会員の皆さまにおかれましては、これからも地衣学会発展のため、より魅力的な学会を目指して、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、この2年間を以下のような体制で学会を運営して参ります(ニュースレター165号でも一部お知らせ済み)。2年間、どうぞよろしくお願いいたします。

### 2022-2023 年度役員・委員会(敬称略)

会長：木下薫(清瀬)

庶務幹事：坂田歩美(千葉)

会計幹事：川上寛子(2021-2022年度)(秋田)

監事：原田浩(千葉)，中嶋裕之(久留米)

評議員：原光二郎(議長，秋田)，原田浩(千葉)，中嶋裕之(久留米)，小杉真貴子(東京)，坂東誠(池田)，川又明德(新居浜)，清水公徳(東京)

編集委員会：綿貫攻(委員長，高崎)，Theodore L. Esslinger(米国)，原田浩(千葉)，Jae-Seoun Hur(韓国)，川又明德(新居浜)，木下靖浩(横浜)，小峰正史(秋田)，小杉真貴子(東京)，坂田歩美(千葉)，王欣宇(中国)

ニュースレター編集委員会：坂東誠(委員長，池田)，河崎衣美(奈良)，田中慶太(長崎)

地域活性化委員会：川又明德(委員長)

(北海道・東北地区) 小林寿宣，原光二郎

(関東・中部地区) 綿貫攻，木下靖浩，今井正巳，小杉真貴子，坂井広人

(近畿地区) 高萩敏和，坂東誠

(中国・四国地区) 川又明德，松本達雄，高橋奏恵

(九州地区) 中嶋裕之，田中慶太

ホームページ委員会：原光二郎(委員長)

学術交流委員会：坂田歩美(自然史学会連合，日本分類学会連合担当)，原光二郎(日本菌学会担当)

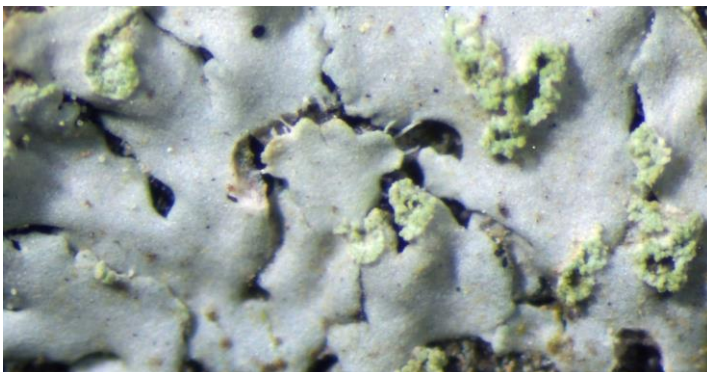
日本の地衣フロラ解明プロジェクト：原田浩(委員長)

## 会員通信 From Members

### ムカデゴケ科のこの地衣類は？

*Do you know this lichen of Physciaceae? / by HARADA Hiroshi*

>>>>>>>> 原田 浩：千葉県立中央博物館



千葉県内の調査でこの地衣類を採集した時は、ルーペでムカデゴケ *Physciella melanchra* (Hue) Essl. と同定した。地衣体は灰白色で、ほぼ円形の粉芽塊が裂片の中央部にあったからだ。

ところが、標本にしてからマクロ撮影をしているとき違和感があった。図

の中央の裂片の先端から偽根がはみ出しているのだが、密度が高すぎるのだ。・・・そう、これは、コナアカハラムカテゴケ *Phaeophyscia rubropulchra* (Degel.) Essl. である。この種は、髄層に橙色色素が含

まれることがよく知られているが、多少とも日陰に生育する場合には、橙色色素をほとんど欠くことがあるのだ。

---

### ◆原稿募集

本誌は、会員からの原稿を随時募集しています。地衣類にまつわるエピソード、思い出、あるいは地衣類に関する写真とタイトル、簡単な説明文だけでも受け付けます。電子メールにて次のアドレス宛に投稿御願います：  
bandomakoto@aa6.mopera.ne.jp (坂東 誠)

### ●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外は、図書館も著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体からの許諾を受けてください。著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡ください。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 学術著作権協会。

Tel: 03-3475-5618. Fax: 03-3475-5619. E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

アメリカ合衆国における複写については、次に連絡してください。

Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA.  
Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744

### ●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright for clearance by the Japanese Society for Lichenology.

Except in the U.S.A.: Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC).  
6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052  
Japan. Tel: 81-3-3475-5618. Fax: 81-3-3475-5619.  
E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp  
In the U.S.A.: Copyright Clearance Center, Inc. 222  
Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA. Phone:  
(978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 166, pp. 647-650: eds. Bando M., Kawasaki E., Tanaka K., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 11 May 2022.

---

日本地衣学会ニュースレター166号

発行日：2022年5月11日

編集：坂東誠・河崎衣美・田中慶太

発行者・発行所：日本地衣学会

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2

千葉県立中央博物館内

---

---

©2022日本地衣学会 (© 2022 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。